

吉田から揚店

☎22-121

気取らず、
気負わず、
ふだんの自分の味で。

火の国阿蘇の
恵みのブランド

然
zen
A s o C i t y

阿蘇においしい唐揚あり、のうわさは風に乗って広まった。
テレビが取材にきて「たしかにこれはうまい」と実感し、伝え、
さらに広まる。気づけばこの小さなさりげない

「昭和の香りがする店」は名所になった。

吉田美代子さんが、「子育ての手も離れて」何かやろうと考えたのは
昭和五十年代。あれこれ迷わず、唐揚と決めたのは直感だった。

気取らず、気負わず、ふだんの自分の味でいこう。それがよかった。

家庭料理の親しみと、からっと揚げる主婦のワザが

「庶民の名品」を生んだのだ。わたし一代で終わりと思っていたけれど、
うれしいことに孫のマー君が、

「ばあば、ぼくが加勢しようか」と名乗り出てくれた。

だからいまは補佐にまわる。マー君はアイデアマンだ。

おいしさの工夫をあれこれ模索する。

そんなときは、ばあばと検討会議が開かれる。楽しいでしょうねえ！

「それはもう、楽しいのなんのって」

吉田から揚店 吉田美代子

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。